

史跡・景勝地ウォッチング

●豊川稲荷神社

祭神は神通力をもつ神、茶枳尼天と百穀の神、倉稲魂神である。神社創建はいろいろな説があるが、曹洞宗寺院記録によると、享保20年(1735年)大雄院の茶枳尼天尊を滑川観音院に移したとある。明治6年この地、蔵前に滑川小学校が創立。同23年火災で焼失した。

●塩釜神社



旧村社。昔は六所明神といわれていたが、明治6年塩釜神社と改められた。主祭神は塩土翁伎命で、その他、大田命など五柱の神々も祭られている。創立は天正13年、友部山の尾城(十王町)の家士らが陸奥国(宮城県)の塩釜神社の神を分霊して遷座した。この他境内には、北野神社等六つの祠も祭られている。

●天王様(素戔神社)と巨樹

祭神はスサノオノミコトである。しかし、天王様とは、祇園精舎の守護神、牛頭天王のことである。スサノオノミコトが天王様と称される理由は、両神の荒神的性格が習合したからであろう。旧暦6月15日が祭で、荒みこしが出てにぎわった。巨樹シイの木は樹齢約300年になる。

●滑川丘の六地藏

六地藏とは、六道に迷い、苦しむ人々を救う仏である。地獄道に檀陀地藏、餓鬼道に宝珠地藏、畜生道に宝印地藏、修羅道に持地地藏、人間道に除蓋障地藏、天上道に日光地藏の六体の地藏で、滑川丘の六地藏に見られるように各々形象が異なっている。



●富士神社

江戸中期頃から富士山講が盛んになり、登れない人のために各地にミニ富士山がつくられた。祭神は木花開耶媛命。もとはゴルフ場内にあったが、開発で現在地に移され、祭も今はすたれて行われない。隣接地に山の神の祠がある。

●庵寺跡

かなり昔から、庵または庵寺といわれてきたところで、石碑・石仏に明和9年(1772年)の文字も見え、ここには大日如来、地藏、観音の石碑石仏や、梵字を円形に刻み(曼荼羅という)、大日如来に救いを求めた光明真言塔がある。

昔は、盆踊りでにぎやかだった。

●滝作の溜

北川の上流にあり、農業用水として江戸時代頃つくられたという。上溜、下溜があり、一時、開発の土砂流入で埋もれてしまったが、浅瀬工事で復元した。溜の北側斜面には、男石、女石、団子石、むじな石等の巨岩奇石が多く、東側道路斜面下には、月待信仰の二十三夜尊の石碑が見られる。

●男滝、女滝

北川上流にあり、男滝、女滝からなる二段の滝は、落差合せて約20メートルある。(滝への道路は、砕石工事のため現在は危険なので、いかないう方がよい。)

●成田山東光院

真言宗智山派に属する寺院で、昭和15年高木修道和尚が、鹿島郡大野村より移して創建する。

境内には、弘法大師像や不動明王の石像が建立されている。

●滑川一里塚

一里塚とは、交通路の距離を示す土塚で、旅人の休息の場でもあった。滑川一里塚がこの地にあったといわれているが、滑川は10余の坂のある難所な道であったことを示す場所でもある。

●度志観音道標

建てられたのは約300年くらい前と推定され、度志観音へ十一丁、栄蔵小屋へ二十一丁と記されている。(一丁<町>は約109メートル)

●愛宕神社

滑川丘や滑川浜に愛宕神社が数社ある。火伏せ、防火の神であるほか、疫病等を防ぐとして信仰された神社である。

●仏ヶ浜と度志観音



仏ヶ浜は、「海辺の崖に観世音菩薩が彫られたので仏ヶ浜と名づけた」と常陸国風土記(奈良時代)に記された場所として、昭和36年、茨城県より文化財の指定を受けた。

度志観音堂は、弘法大師が建てたといわれる古い寺である。境内には、庚申信仰の本尊青面金剛や、人身象頭の二天が抱きあう雙身歡喜天等、多くの石仏石塔がある。

●大田尻横穴群

古墳時代の後期頃から、岩はだを利用した横穴の埋葬施設がつくられるようになった。はじめは一つの墓に一人を葬っていたが、後には、追葬もするようになり、複数の人骨も出土している。

●西行歌碑と栄蔵小屋

鶴の島温泉のある浜辺に西行法師の歌碑が建っている。

大田尻衣はなき裸島

沖吹く風に身にはしめぬか
この歌は田尻浜の小島に小屋を建てて修行していた栄蔵という僧の貧しい暮らしを、裸島にたとえて歌ったものであるという。

●ソバナゴ



金木場の東端、急な崖地の海岸で、昔は馬捨て場であつたらしく、地元の人達は捨馬捨の字を当てていた。

浜では、昔、塩炊きが行われ、崖下には海水溜が残っている。また島には、日立の鳥「海鶴」の姿も見られる。(11月頃～5月頃)

●金木場遺跡



「図説 日立市史から」発掘の調査結果、金木場、向畑遺跡から、縄文期より平安期にかけての多数の住居跡や土師器、須恵器等が出土した。特に、墨書土器や焼印等の文字を使った遺物の発見により、律令期の里長が住んでいた所と推察されている。

●津神社

祭神は大綿津見命という海の神で、滑川浜の鎮守様として漁業などの安全を祈願する神社である。

●百万遍供養塔

一般に念仏塔という。集落の人々が講をつくり、「ナムアミダブツ」を唱えて、全員の念仏が百万回に

達したとき、記念として供養塔が建てられた。

昔は砂浜が広く、浜辺には崖をくり抜いた米蔵があり、ここから年貢米を水戸藩に船で納めた。

●清水聖観音堂

「耳だれ観音」ともいい、参拝すると耳の病気がよく治り、治ったら、お椀に穴をあけ、ひもを通して奉納するという。

創立ははっきりしないが、館跡のすぐ下にあり、関連あるものと思われる。

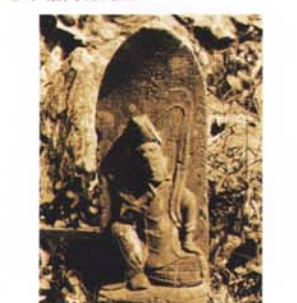
●滑川館跡



延徳年間(1489年～1492年)佐竹の有力な家臣、小野崎氏の一族、小野崎直通が小幡館に居住したとある。小幡館と滑川館が出てくるが両者は同一という説が強い。

直通はその後相賀館(会瀬)に移り、後には同族の小野崎左衛門が入ったが天正13年(1516年)、いわき軍進出の際敗れ去ったという。

●小幡阿弥陀堂



通称「イボ神様」といわれ、参拝すればイボが治り、お札に大豆を奉納するという。

創建は不詳だが、室町中期頃と

もいわれている。堂内には阿彌陀如来等を祭るほか、境内には十九夜講の如意輪観音等の石仏や八坂神社碑(スサノオノミコトや牛頭天王を祭る)等が並んでいる。

●四所明神

四所明神は、昔、小野崎氏などこの地域の4人の庄屋・有力者の氏神を祭ったものと伝えられている。四所明神の創建は明らかでないが、祠の中には、江戸時代の年号を記した木札が納められている。しかし、祭神は明らかでない。六所明神の大半とは四所明神という人もいるが、関係は不明である。

●海雲山観音院

天正3年(1575年)館主、小野崎氏の要請を受け、大雄院九世、吉山元利禪師により開基された曹洞宗の寺院である。

大正2年(1913年)凶悪強盗により、住職夫妻が殺害、放火されたので、寺を舞台の地から現在地へ移して、大正15年再建された。



本堂や観音堂に描かれている仏画、鐘楼に彫られている30余の龍の彫刻、境内には、不動明王、子育て観音、説法地藏などの石仏等、見学するところも多い。

●滑川浜古墳と三峰神社

観音院東側の小丘に滑川浜古墳がある。円墳とされているが、前方後円墳との説もある。その古墳の上に三峰神社の祠があり、160余軒からなる三峰講が今なお続いている。毎年代表二人が秩父三峰神社に参拝し、盗難、火難除けのお札を受け、各家に配るのである。